

松本清張記念館

◆館報◆
2009.12
第32号



黒田征太郎さん作品（最終バージョン）

近藤等則 × 黒田征太郎

ライブ
作 品

画家の黒田征太郎さんの絵が近藤等則さんのトランペットに反応し、Aとなり、更にB、Cへと刻々と変化して、上の作品になりました。(詳しくは七頁)



作品段階 C



作品段階 B



作品段階 A

目次

● トピックス	● 大沢在昌・宮部みゆき・京極夏彦
● 生誕100年記念事業	● 大極宮トーケンショード
● 友の会活動報告	● 企画展紹介「神々の乱心」

大沢在昌・宮部みゆき・京極夏彦

大極宮トークミニヨン

平成二十一年八月四日(火) 北九州芸術劇場大ホール

松本清張とミステリー

八月四日(火)、松本清張記念館開館十一周年のこの日、清張生誕の地・小倉に、直木賞作家の大沢在昌さん、宮部みゆきさん、京極夏彦さんをお招きし、生誕100年を記念したトークショーを開催しました。人気作家三人を迎えて、会場は一、二〇〇名の聴衆で熱気に包まれました。第二部の初めの質問「一ナード」では、作家志望の人から質問が相次ぎました。三人の軽妙なやり取りに場内は沸きかえりました。



記念館にある 清張さんの書斎

大沢 会場に来る前に、三人で

松本清張記念館に行つてきました。あそこに、清張さんの

住まわれていたお宅がそのまま再現されていて、タバコの焦げ跡だらけのカーペットに椅子が置かれ、デスクの上には灰皿やコーヒーカップがあります。

宮部 「清張さんはちょっと席を外していらっしゃるだけで、すぐに戻つてこられるよね

大沢 「清張さんは、あちこち飛び回っていても、執筆は

というくらい、書斎そのものが生きていますよね。

京極 あの書斎は蛍光灯がつきっぱなしで、夜、遅くに仕事をされているという状況を再現しているわけでしょう。

宮部 お宅のすぐ横を、私鉄の線路が通つて写真のパネルが記念館に展示されています。「水の炎」というドラマでしたのが、「原作・松本清張」と出て、この人は?と聞くと母と一緒に観たりするわけです。

大沢 ドラマの話が出ましたか。

京極 京極さんが昨日の朝四時半ま

でかけて作った清張作品の映像化リストによると、清張原作のテレビドラマは三百十五作品。

必ずお宅じゃないとダメだつたんですね。別荘なんかにも全く興味を持たれなかつたそうです。

宮部 ご自分の馴染んでいる本や資料が傍にないと、やっぱり落ち着かないって。

大沢 この三人の中で清張作品を一番たくさん読んでいるのは、宮部さんですね。どういうきっかけで清張さんを読むようになったのです?

宮部 小学生のころ、昼の時間帯に清張さん原作のドラマをやつていて、私の帰りが早いと母と一緒に観たりするわ

です。

京極 くと、松本清張という偉い作家だと教えられて。高校生になつて「点と線」や「砂の器」などの代表作を読み、「小説帝銀事件」を読んだのが高校三年生くらいだったかな。

大沢 ドラマの話が出ましたか。

京極 京極さんも、松本清張の

連続ドラマや前・後編に分かれているものは一タイトルと勘定して、三百十五タイトル確認できたということです。

大沢 清張さんってタイトルをつけるのがうまいでしょう。だから「球形の荒野」とか「点と線」なんて、プロデューサーとしては「このタイトルなら視聴率が取れる」とか、「映画館にお客さんが入る」と思えるのでしょうか。

大沢 タイトルもそうですが、何十年もの長いスパンで何度もドラマ化されるということ 자체がすごいです。中身が古びていないとことですから。

宮部 作品自体は発表当時の社会性を十二分に反映して書かれている。それでいて根底に描かれているのは普遍的な人間像ですからね。

宮部 セット、衣裳、小道具といつた風俗の部分は取り替えられます。人物造型や謎解きといった物語のメインのところに普遍性があれば、いつでも映像化できるわけですね。



大沢在昌さん

大沢 人間描写が根幹に迫つてゐる。時代が変わつても変わらない人間の本質、欲望の本

質を、きつちりえぐっている
んですよ。

清張作品は 生活派のミステリー

京極 これだけ作品が映像化され
ていながら、清張作品には

シリーズ物がないというところも、特筆すべき点ですね。

宮部 「点と線」の刑事コンビが

「時間の習俗」で再び登場してアリバイ破りに挑むのが、

非常に例外的なケース。
大沢 ヒーロー、名探偵という

ものを、清張さんは信じてい

なかつたと思います。

宮部 刑事であれ、新聞記者であれ、普通の、どこにでもい

るような人が主人公。それゆえ、繰り返して登場させるこ

とができるわけですね。

大沢 清張さん以前には、名探偵

が登場し、快刀乱麻を断つごとく難事件を解決するという名探偵の時代がありました。

一方、清張さんが描いたのは、

しわくちやのコートを着、あんパンを食べ、靴底をすり減らして捜査する刑事です。

京極 清張さんは、社会派ミス

テリーの祖という言われ方もしますね。

宮部 社会派というと、社会構造の歪みゆえに起こった事件を描くという大きな構えのイ



宮部みゆきさん

に徹しなければならなかつた人、人生の最期の最期に敢えて反逆して死んでいく人。日陰でどこか屈折した人間の哀しみ、生きがい、プライド、怒り、それもまた、時代を超えて読者の心をとらえる要素だと思います。

大沢 家に閉じこもつて資料を開まれて書斎で原稿を書くと

いう毎日の生活の中で、時代の風俗であるとか、その時々の庶民の感覚というものをどこで吸収していたのか。よほど好奇心旺盛な人でなければ、あれだけの作品は生み出せないと思います。

京極 とてつもない勉強家です

よね。いわゆる学歴をお持ちではない。そういう意味でずいぶんご苦労もされたと思うのですが、そのぶん社会人になつてから、ご自分で学ばれているわけですよ。私が最初、

松本清張に接したのは、「古代探求」でした。清張さんは

古代史に非常に造詣が深い

だらうなと思います。歴史小説では、丹羽長秀とか、メジ

ヤーでない武将を取り上げる

んです。きらびやかな主役の

周りにいて支えた人とか、主役級の人がいたために第一

線に浮かびあがれなかつた

人、生涯不本意ながらも懐刀

一步も出なくても書くことができます。それは空気を感じとるセンスというか感覚といふか…。

宮部 特急や新幹線に乗るときなど、ふとした瞬間に世の中のことを攝取することができたのでしょう。目が良くて耳が良いタイプの作家だったと思います。

大沢 電車に乗り、あるいは道を歩いていて、いろんな人とすれ違う。この人はどんな仕事をしているんだろう、趣味は何だろう、と私も考えるんですね。どうやら、お洒落が好きそうだ、なんて、見えたものを核にして想像を組み立てていく。小説家って、そういうタイプが多いと思うんですよ。それが物語の人物造型にどこかで活きる。

京極 とても想像を組み立てていく。小説家って、そういうタイプが多いと思うんですよ。それが物語の人物造型にどこかで活きる。

一同 ゆうい！

邦初公開！

清張さんの達磨絵

大沢 清張さんは朝日新聞広告部の意匠係にお勤めになつて

いて、いわばデザイナーでもありました。清張記念館には

清張さんの自画像も展示され

ていました。

味のある、素敵なお絵

です。

大沢 京極さんも実はデザイナーであります

りますが、

今日、彼がすごいものを持つきただらし。

京極 有田に十四代今泉今右衛門さんという陶芸家の友人が

いますが、清張さんは先代の十三代今右衛門さんと親交が

おありで、有田のお宅に寄られたり、清張さんがご飯を

食べているときに、「ちょっと紙を貸してくれ」と言つて、

さらさらと達磨の絵を描いた。

さらにお皿から割りばしでちよいちょいと醤油を取つて

色を付けたという。

その絵というのが（絵を取

り出して）これなんです。本

ばかり公開！



京極 この達磨の顔のあたりが醤油で描かれているらしい。これはカラーコピーですけれど。

禅画的な絵というるのは空間の配置が非常に難しいのですが、その辺がとても巧みですね。やっぱりデザイナーでいらっしゃんだなと思いますね。

播種——『昭和史発掘』から II

松本清張が謎の新興宗教の存在に突きあつたのは、「昭和史発掘」の執筆中であった。二・二六事件を調べていくうちに、同じ昭和11(1936)年に新興宗教と宮中とが結びついて起きた、二つの〈ある



「島津ハル事件」新聞記事
(取材資料)

意味で重要な事件〉が目にとまつたのである。「島津ハル不敬事件」と「神政龍神会事件」である。

絶筆—— IV 〈本当に瑞々しい作品は〉

〈本当にみずみずしい作品は、若い頃には書けないものだ〉

遺作「神々の乱心」はこの松本清張自身の言葉のとおり、若々しくまるで枯老を感じさせない。壮大で深遠なテーマに最後の情熱をほとばしらせ、想像力を奔放に解きはなった小説である。



「神々の乱心」絶筆原稿

松本清張生誕 100 年記念特別企画展

松本清張 最後の小説

— 亂心の〈神々〉はどちらにつくのか —

神々の乱心

開催期間
平成22年
1月9日(土)
3月31日(水)
会 場
記念館地階
「企画展示室」

I 「神々の乱心」の世界

「神々の乱心」は、新興宗教「月辰会研究所」の教祖が、宮中と軍隊に勢力を伸ばし、天皇権力を手中にしようとする、とてつもない野望を描いたスケールの大きな小説である。

〈昭和初期〉という時代と〈天皇制〉の深奥に迫る、壮大にして深遠なテーマを小説で描ききろうとした野心作である。



挿画 小泉孝司画・所蔵

III 開花——昭和の終るころ

昭和63(1988)年の夏、松本清張は次の連載小説について「やはりあれにしようか」と言った。二十年余、「いつか小説にしておきたい」と執心してきた題材だった。新興宗教と宮中というタブーを抱える題材に敢然と立ち向かうことを決意したとき、まさに〈昭和〉は終ろうとしていた。



取材資料

友の会活動報告

●文学散歩

今年度の文学散歩は柳川方面へ。昭和55年に清張自身が訪れたルートを参考に各所を訪問しました。柳川では北原白秋記念館の見学、春日市では奴国の大丘資料館で当時清張を案内したという職員の方とお会いすることができ、当時の清張の貴重なエピソードを聞くことができました。もちろん柳川名物うなぎも食べてお腹も大満足! 楽しい一日となりました。



●生誕 100 年記念巡回展ツアー

全国各所で行われている松本清張展(巡回展)の見学と各地の会員との交流もかねてツアーを実施しました。5月には東京へ。世田谷文学館を見学、明治座で「黒革の手帖」国立劇場で「左の腕」も観劇しました。9月には姫路へ。姫路文学館の友の会の方々との交流は今後の活動に大変意味深いものとなりました。そして東北へ。仙台文学館主催の「ライブ文学館」に参加。貴重な体験をさせていただきました。また青森まで足をのばし斜陽館へ。清張と同じ年に生誕100年を迎えた太宰治の故郷への旅。



これまでの友の会事業の中でもまたない素晴らしい旅となりました。

松本清張生誕100年記念事業

平成二十一年に行われた松本清張生誕100年を記念する催しを紹介します。

特別企画展

「一九〇九年生まれの作家たち」

—大岡昇平・中島敦・太宰治・

埴谷雄高・松本清張—

一月十一日(日)～八月三十一日(月)、記念館地階企画展示室で開催された企画展に延べ二万名が訪れました。



谷川俊太郎・小室等・谷川賢作 「詩と歌と音楽が言霊になつて」

三月二十四日(火)、記念館地階企画展示室前ホールで、谷川俊太郎さん、小室等さん、谷川賢作さんがライブを行いました。谷川賢作さんは常設展示室2のBGM「終わりなき探求」の作曲もされていますが、記念館での演奏は初めてです。三人が織り成す言葉と音楽は館内に響き渡り、二百四十名の聴衆を包み込みました。



左から小室等さん、谷川俊太郎さん



谷川賢作さん

「SEICHO」— 清張をフラメンコで踊る — Visual Art Performance —

四月十七日(金)、記念館地階企画展示室前ホールで、世界的なフラメンコのバイラオール(男性舞踊手)斎藤克己さんによる、新しいダンス・シーンの試みとして、松本清張の名作「天城越え」を、フラメンコ・ヴァージョンで表現しました。会場を埋めた百八十名の観衆は幻想の世界にしばし浸っていました。



斎藤克己さん

松本清張生誕100年記念巡回展出発式

四月一日(木)、記念館玄関前で、全国巡回展の出発式が行われました。満開の桜が咲き、五十名の人々が見送る中、最初の開催地「世田谷文学館」へと展示物を載せたトラックが出発しました。



前進座朗読劇「点と線」

四月十八日(土)、記念館屋外特設ステージで、記念館友の会主催で「前進座」による朗読劇が催されました。今年は「点と線」を上演、百名の聴衆が春の宵のひととき、清張ミステリーの傑作を堪能しました。



左から柳生啓介さん、浜名実貴さん、津田恵一さん

清張原作舞台劇 「或る『小倉日記』伝」

十月二日(金)～四日(日)の三日間、北九州芸術劇場で、「前進座」が「或る『小倉日記』伝」を上演しました。芥川賞を受賞したこの作品の北九州での公演は初めてのことです。三日間で約千八百名が鑑賞しました。



左から浜名実貴さん(ふじの妹、おもと役)、柳生啓介さん(田上耕作役)、北澤知奈美さん(耕作の母、ふじ役)

清張似顔絵コンテスト入賞作品展

九月十九日(土)、記念館地階ミュージアムショップ前に、似顔絵コンテストの入賞作品二十八点が展示されました。展示期間は、平成二十一年十二月二十八日(月)までです。



松本清張を見る(米尔)×聴く(キク) 近藤等則×黒田征太郎ライブ



左から近藤等則さん、黒田征太郎さん

九月二十五日(金)、記念館屋外特設ステージで、画家の黒田征太郎さんとトランペッターの近藤等則さんが清張の世界を絵と音で表現しました。トランペットが夜空に響き、黒田さんの絵が変化していくにつれて、会場の二百十名も一体となり、熱氣があふれました。

ブレス・パッセージ2009 火の路

九月二十六日(土)、記念館屋外特設ステージで、小説「火の路」をテーマに田中泯さん(ダンス)、姜泰煥さん(アルトサックス)、大友良英さん(ギター)、齋藤徹さん(コントラバス)がライブを行いました。百二十名が演奏とダンスパフォーマンスを鑑賞しました。



十月五日(月)～三十日(金)、記念館地階企画展示室で、生誕一百〇〇年を記念して、清張紀行の会が刊行した画文集『清張紀行一〇一景』原画展が開催されました。約二千名が訪れました。



画文集『清張紀行一〇一景』原画展

十一月十四日(土)、記念館二階エレベーターホールに、墨書展の応募作品三十一点が展示されました。展示期間は、平成二十二年一月三日(日)までです。



生誕100年記念 墨書展

その他開催された松本清張生誕100年記念事業行事

- 4月9日(木) | 猪瀬直樹講演会「地域の文化とまちづくり～松本清張生誕100年を記念して」北九州芸術劇場 北九州青年会議所 約600名
- 5月16日(土) | 半藤一利講演会 北九州芸術劇場 小倉東ロータリークラブ 約800名
- 8月1日(土)～9月4日(金) | 清張原作映画特集(初日に「波の塔」のヒロイン役を演じた有馬稻子さんのトークショー開催 約300名) 小倉昭和館
- 9月19日(土)～20日(日) | 清張ウォーク 第3回 北九州無法松ツーマーチ 約5,000名
- 10月2日(金) | 清張原作落語「女義太夫」笑福亭円笑公演 北九州芸術劇場 約140名
- 10月17日(土)～11月6日(金) | 清張原作映画特集第2弾 小倉昭和館
- 10月31日(土) | 五木寛之講演会「松本清張の時代」九州厚生年金会館 北九州青年会議所 約1,400名
- 11月21日(土)・22日(日) | 青春座舞台劇「ゼロの焦点」北九州芸術劇場 約1,300名

清張生誕100年記念事業

●お問い合わせ

松本清張生誕100年記念事業実行委員会事務局
TEL : 093-582-3275 / FAX : 093-582-1055

●ホームページ

清張生誕100年記念事業の情報が一目でわかるホームページを開設しています。
<http://www.seicho-100.com> ホットな情報を随時更新中。

第12回

松本清張研究奨励事業募集

募集要項

- 対象 ①松本清張の作品や人物を研究する活動
②松本清張の精神を継承する創造的かつ斬新な活動(調査、研究等)
- ※上記①②の活動で、これから行おうとするものの。ジャンル、年齢・性別・国籍は問いません。ただし、未発表に限ります。個人又は団体も可。

内容 入選者(団体)に200万円を上限とする研究奨励金を支給します。

応募方法 今後取り組みたい調査・研究テーマ等の内容が具体的に分かる企画書、予算書、参考資料(様式は自由、ただし日本語)を、平成22年3月31日までに提出してください。

※詳しくは記念館までお問い合わせください。

平成21年度

松本清張記念館学芸員の講演

平成21年度に記念館学芸員が依頼を受けて行った講演は次のとおりです。
(平成21年12月20日現在)

月日	依頼者	演題	講師
6/3	南丘市民センター	文学講座「松本清張記念館見学とドキュメンタリー映像「日本の黒い霧」鑑賞	小野
6/23	長尾市民センター	市民講座第1回「点と線」	中川
6/30	長尾市民センター	市民講座第2回「朝日新聞社時代の松本清張」	小野
7/7	長尾市民センター	市民講座第3回「一九〇九年生まれの作家たち」	柳原
7/10	生涯学習総合センター	「一九〇九年生まれの作家たち—近代百年の光と影—」	柳原
7/15	藤松市民センター	市民講座「松本清張を語る」	柳原
8/29	姫路文学館	巡回展記念講演「『点と線』誕生—清張はなぜ推理小説を書いたか」	中川
10/4	仙台文学館	巡回展記念講演「作家・松本清張の誕生」	中川
10/27	筑紫野市民図書館	「松本清張と図書館のはなし～生誕100年にちなんで」	柳原
12/20	高知県立文学館	巡回展記念講演「作家・松本清張の誕生」	中川



編集・発行

松本清張記念館

〒803-0813

北九州市小倉北区城内2番3号

TEL 093(582)2761

FAX 093(562)2303

<http://www.kid.ne.jp/seicho>

制作 (株)エディックス

- 開館時間 午前9:30～午後6:00(入館は午後5:30まで)
- 休館日 年末(12月29日～12月31日)
- 観覧料 一般／500円(400円) 中・高生／300円(240円)
小学生／200円(160円) ()は30人以上の団体
- アクセス JR: 小倉駅から徒歩15分 西小倉駅から徒歩5分
小倉駅からは100円バスをご利用いただくと便利です(小倉城・松本清張記念館前下車)
車: 北九州都市高速、大手町ランプより5分



第11回

松本清張似顔絵コンテスト表彰式

平成21年8月4日(火)、北九州芸術劇場大ホールで、清張似顔絵コンテスト表彰式及び第11回研究奨励事業奨励金贈呈式が行われました。

清張似顔絵コンテスト受賞者

最優秀賞 木下 義信(広島県)

北九州市長賞 横島 正彦(福岡県)

九州産業大学賞 宇田川 のり子(東京都)

研究奨励事業入選者

企画名 『黒地の絵』の英訳

入選者 加島 巧(長崎外国语大学教授)

企画名 松本清張が追った、ヨーロッパの幻影を求めて—欧州統合運動の隠された一面—

入選者 前田 洋平(筑波大学人文社会科学研究科)

企画名 松本清張の小説世界と今の中国社会の類似性について—時代背景と人間の共通心理を視点に—

入選者 張 雷(南京師範大学准教授)

●編集後記●

今号は、この1年、記念館で行われた清張生誕100年の催しを中心にお届けします。特別企画展、全国巡回展、講演会など多くの皆様にご来場いただき、大変盛り上がりました。1月からの特別企画展の開催など来年3月まで生誕100年記念事業は続きます。ご期待ください。

(西本 衛)

